



長岡花火も終わって盆も過ぎ、九月ともなると「今週の休みは何をしようか」と、行事が目白押しだった夏と比べて随分と趣が異なる。

何はともあれ、越後平野は一面黄金色に染まって収穫の季節を迎えている。

農家の方にとっては今年一年の総決算。

例年通り手伝いに参加した。

吹き抜ける風こそ少しぬるくなったとはいえ昼間の日差しは依然厳しく、コンバインを操って稲を刈り取る父の背中には塩が浮いていた。

夕方、無事に作業を終えて帰路に就く。

西の空にぼんやりと月がのぼっていた。今年9月15日は「中秋の名月」。

月の満ち欠けを基にした太陰暦（旧暦）では8月15日にあたり満月となる。

9月10月になっても暑さが続く現代では少し感覚がずれてしまいそうだが、旧暦では7月から9月が秋であり、その真ん中に当たることから中秋と呼ぶ。

それ中秋の名月と呼ぶのだそうだ。

団子にサトイモ、ススキを供えて・・・とまでする人は今でこそごく僅かかもしれない。

同じ月を見上げて秋を感じたいところだが、長岡市の週間天気は曇り続きらしい。

仮に雲に隠れても「無月」という言葉がある。

心の目で月をめであるというのも風情があるかもしれない。